

中国雲南省・昆明編

電動バイクが大流行 手頃な価格で大気汚染も緩和



(上)店先で延長コードを使って充電する電動バイク。
(左)スピードの出ない電動バイクなので、誰もヘルメットは被らない。警察も取り締まらない？

中国は総人口約14億人(今年9月現在)が世界一最多の国として有名です。このため、さまざまな環境問題も生じます。

その一つが排気ガス。大都市の多くでは今でも大気汚染に悩まされていますが、大気汚染指数は年々少しずつですが良くなっています。2015年から中国政府は環境問題に力を入れ始め、第13次5カ年計画(2016～2020)には二酸化炭素排出量を18%削減する目標を立てています。

数年前に広東省などを周ったときはあまり気づかなかったのですが、今回久しぶりに中国に来て驚いたことの一つは電動バイクがそこら中に走っていること。どこもかしこもバイクのブルブルという騒音がなく、スーッと音もなく近寄ってくるのにはびっくりします。電動バイクの流行とっていいでしょう。

駐輪されているどのオートバイをみてもマフラーはありません。スピードも50キロぐらいまでしか出ないので、街中を走る電動バイクの運転手は誰もヘルメットを被っていません。

電動バイクなので、充電をしなくてはなりませんが、どこでするのでしょうか。それは自宅です。まるで家電製品のように、所有者たちは自宅のコンセントに延長コードを付けてオートバイの充電用差込口にプラグを入れます。充電はだいたい8時間ほどで「満タン」に。市内だけを走るのであれば、週に1～2回ほど充電をすれば十分なようです。ガソリンよりも燃料費は安く、中国人たちはみな、電動バイクを乗り回しています。

昆明市内にあったオートバイ店で聞くと、中国製なので価格は一台あたり3,000人民元(5万円弱)ほど。頭金500人民元(800円弱)で販売しているところもありました。

オートバイの外観は、ガソリンで走るバイクとほとんど変わりません。おしゃれなバイクも多くみかけました。スピードはそんなに出ないために事故が起こることも稀なのではないでしょうか。お得なことばかりで、ほとんどデメリットがないのでは？

ただ、今回見た限り、電気自動車は一部を除いてみられませんでした。自動車も完全な電氣化になる日が近いかもしれません。